

◆アムステルダムで9月13日から16日まで開催されたIBC (International Broadcast Convention) において、オタリテック取扱いメーカー/ブランドから発表された、新製品に関する情報。

より多くのアプリで、より多くの価値をLAWOがHOME Appsを大幅拡充

IBC 2024 において、LAWO は、HOME Apps プラットフォームがこれまでの倍となる9つの主要なプロセッシングアプリを提供することを発表した。追加のアプリは、IBC 後の数週間以内にリリースされる予定。



すべてのアプリは、同じ汎用コンピュータ上で実行され、LAWO のHOME 管理プラットフォームを使用して、複数の拠点間で簡単に設定および共有できる利便性を提供する。現在のラインナップは以下の通り：HOME Multiviewer、HDR 処理を備えたHOME UDX 変換、HOME Stream Transcoder、HOME Graphic Inserterをはじめ、最初のオーディオアプリであるHOME mc² DSP、HOME Test Pattern/Test Tone Generator (TPG)、HDR 処理対応の強力なHOME Color Corrector、必須のHOME Timecode Generator、そしてアライメント用のHOME Delay が加わった。

「LAWO のHOME Apps プラットフォームは、放送業界におけるIP 化の『第2 波』が持つ本質的な価値を体現しています」と語るのは、LAWO のCTO であるPhil Myers 氏。

「コンテナベースの処理を計算するハードウェアから切り離すことで、次世代のメリットがもたらされます」

これには、異なる、またはより強力な汎用のプラットフォームやアーキテクチャにシームレスに拡張する能力、既存アプリの機能セットを短期間で拡張できる柔軟性、HOME Apps を瞬時に起動/停止する機能、そして最先端の処理ブロックをマイクロサービスベースのコンポーネントから直感的に「組み立てる」ことができる機能が含まれます。この高度にモジュール化されたプロセスの根底にある柔軟性は、HOME の直感的なユーザーインターフェースによって抽象化されています。これによりユーザーは、SMPTE ST2110、SRT、NDI、Dante といったトランスポート形式、入出力など、HOME App の処理機能に関する選択を簡単に行うことができます。

同様に、既存の映像処理、音声処理、変換、トランスコーディングなどの個々の機能の強化や変更も簡単に実装できます。このビルドインされた機敏性により、LAWO は従来のモノリシックなハードウェアベースのシステムでは実現不可能な間隔で新しいシステムバージョンをリリースできる。

「HOME Apps プラットフォームにほぼ毎週追加される価値をフル活用するために、LAWO はHOME Apps をLawo Flex サブス

クリプションを通じてライセンス取得することを推奨します」と話すのは、LAWO の副CEO であるJamie Dunn 氏。

「Flex サブスクリプションのユーザーは、固定予算内で頻繁に変化する制作要件に対応するために、既存のすべてのHOME Apps や今後のHOME Apps を柔軟に利用することができます」

LAWO のFlex サブスクリプションは、HOME Apps プラットフォームの枠を超えています。edge やHOME 自体のオプション機能のロックを解除するためにも使用できる。

LAWO の .edge がオーディオのパフォーマンスを強化し、カラーコレクション機能を提供

LAWO は IBC 2024 で、

edge のオーディオおよびビデオ機能への重要な追加を発表した。これには、2つの新しいビルドインパラメーターのオーディオゲインと位相反転が含まれ、オプションとして edge プ



ロセッシングブレードごとに8192 入力 x 4096 出力のオーディオマトリックスの機能も搭載されました。ビデオのカラーコレクションもオプションライセンスとして利用できる。

最大32 のSDI 入力 (@1080p) の入力SDI 信号 (各チャンネルが最大32 オーディオ信号を含む) にエンベッドされたオーディオチャンネルのレベルを調整できるようになった。各入力には、専用のオーディオゲインコントロール (-30dB ~ +18dB) があり同様に、SDI 出力にも適用され、ゲインの変更は標準のAudio Shuffler および Embedder の後に適用される。

各入力チャンネルに搭載された位相反転機能は、信号源から異なる距離にマイクを配置することで生じる不要な干渉やノイズ等を補正するために使用できる。出力にも同様にこの新しい位相反転機能が装備されている。

「LAWO の統合プラットフォーム全体と同様に、edge はシステムアップデートを重ねることで継続的に進化しています」と、メディアインフラストラクチャのシニアプロダクトマネージャーであるJohn Carter 氏は説明する。

「ほとんどの機能強化は、中継車やファシリティに第2 世代のLAWO インフラストラクチャを導入していく過程で、顧客が実際に導入時に寄せたフェードバックやリクエストを元にして、改良や強化が実施されています。良いニュースは、各 edge プロセッシングブレードが非常に大きな計算能力を持っているため、ゲートウェイ機能に加えて、ほとんどの標準機能とオプション機能が並行して実行され、処理能力が損なわれない点です」

Audio Matrix Shuffler (.amshuff)

オプションのAudio Matrix Shuffler ライセンスは、Lawo のFlex Subscription ライセンスメカニズムを介して、永久的または一時的にアクティベートでき、edge ブレードの機能を標準のAudio Shuffling 機能をはるかに超えて拡張する。

ブレードの各 SDI 出力にはすでに Audio Shuffler が搭載されており、オペレーターは 4 つの IP レシーバーから任意のモノラルオーディオチャンネルを選択し、それを 1 つの SDI 出力にエンベッドすることができます。1080p SDI 構成では最大 32 オーディオチャンネルに対応している。

.amshuff は、選択したプロセッシングブレードに 128 のレシーバーと 64 の送信機を装備し、それぞれが 64 のオーディオチャンネルをサポート。すべての入力ストリーム (RX/ レシーバー) は 8192 x 4096 のルーティングマトリックスに送られ、そこでソースを 64 の出力ストリーム (TX/ 送信機) のいずれかにパッチできる。

個別のモノラルチャンネルのパッチ接続は、プロセッシングブレード内で VSM を使用して確立される。

必要に応じて、.edge フレーム内のすべてのプロセッシングブレードに .amshuff インスタンスを割り当てることができます。さらに、送信側には、テストやトラブルシューティングの目的で別個のオーディオテストトーンジェネレーターが提供される。

.edge Color Corrector (.colcor)

オプションの Color Corrector ライセンスは、現場で使用できる RGB/YUV カラー補正ツールを .edge に提供する。edge ブレードごとに最大 32 のカラーコレクターが利用可能。カラーコレクターは、プロキシ生成の前段階で行われ、有効な色 / 値のみが渡されます (自動的に「有効」なレベルに自動クリッピング)。カラースペース変換 (UHD 12G-SDI BT 2020 から、HDR 変換なしの 1080p BT 709 への変換) にも対応している。.amshuff と同様に、.colcor は .edge プロセッシングブレードごとに使用できる。

LAWO crystal Clear バーチャル OnAir コントロールインターフェースが IBC 2024 でデビュー



放送技術革新の世界的リーダーである LAWO 社は、ラジオ制作における最新の進展を IBC で発表した。それが「crystal Clear バーチャル OnAir コントロールインターフェース」。IBC 2024

でデビューした crystal Clear は、放送局に洗練された直感的なバーチャルコントロールソリューションを提供し、スタジオでもリモートでも、ラジオコンテンツの制作と配信方法を変革することを目指している。

crystal Clear バーチャル OnAir コントロールインターフェースは、今日のラジオ放送局の進化するニーズに対する LAWO の深い理解を反映している。ラジオ放送局は、一元化された制御ポイントから緊密に統合されたワークフローを提供するバーチャルミキシングソリューションをオンエアスイートにますます採用している。LAWO の新しいソフトウェアベースのコントロールインターフェースは、

技術的な複雑さよりも創造性や聴衆とのつながり、コンテンツの魅力や重視する経験豊富なプロフェッショナルと次世代のラジオタレントの両方を考慮して設計されている。このバーチャルコントロールインターフェースは、複雑なハードウェアを直感的なタッチスクリーン操作のコントロールサーフェスに置き換え、既存のワークフローとシームレスに統合する。

crystal Clear は、技術的な背景が少ないラジオホスト向けに設計されたセルフオペレーションビューを提供するとともに、高度な機能と制御を必要とする放送エンジニアビューも用意している。アシスト技術は、自動マイク入力ゲイン、フェードイン/アウト、ハンズフリーミキシングのための AutoMix グループなどの高度な自動化機能を活用し、ホストが視聴者との交流に集中できるようにする。crystal Clear のソフトウェアは、プレイアウトシステム、Web ソース、オーディオコントロール、ソーシャルメディアツールを 1 つの統合された洗練されたインターフェースにまとめており、プレゼンターは複数のディスプレイやコントロールに気を取られることなくコンテンツに集中できる。

LAWO の crystal Clear インターフェースは、複雑なセットアップや構成を必要とせず、箱から出してすぐに使えるように設計されており、Automation Assistant モードを使用すると、プロデューサーやホストは日常的なタスクを自動化し、ダイナミックで魅力的なプログラムの制作に集中できる。必要なコントロールのみが表示されるため、気を散らす要素が減り、生放送中にスムーズで自然なやり取りを促進する。

ラジオ制作がリモートや分散型ワークフローへとシフトする中で、crystal Clear は従来のスタジオ環境以外で作業する放送局の要求に完璧に応えます。ホームスタジオからモバイルセットアップ、さらには移動中のライブ放送まで、crystal Clear は比類のない柔軟性と俊敏性を提供する。モジュール設計により、固定インストールと臨時政策の両方がサポートされ、ラジオ局は事実上どこからでも魅力的なコンテンツを制作できる。

比類のない性能対コスト比を誇る crystal Clear は、ブロードキャストコントロール・ソリューションの価値において新たなベンチマークを打ち立てました。複数の制御システムを一つのソフトウェアベースのインターフェースに統合することで、放送局は機器コストやスタジオの乱雑さを軽減し、運用効率と柔軟性を向上させることができます。

crystal Clear は、LAWO の Power Core モジュラー I/O および DSP デバイスに最適なコントロールインターフェースです。スタジオ数とチャンネル数に応じて、以下の Power Core ライセンスから選択できる：Console Compact (フェーダー数 2 ~ 14 のコンソールで、小規模なセルフオペレーションスタジオ、トークスタジオ、リモート制作、中継車向け)、および Console MAX (通常サイズの独立したラジオコンソールを最大 4 台まで、複数のオペレーター用)。マイクやヘッドフォンなどのローカル I/O を拡張または分配するには、Lawo の Audio I/O Extender (AIOX) が最適。

RIEDEL Communications、IBC2024 にて Virtual SmartPanel® を発表

IBC2024 において Riedel Communications は画期的な『Virtual SmartPanel® (VSP)』を発売することを発表した。この最新ソフトウェア・ソリューションによって、ユーザーはモバイル・デバイスをリモート・インターカム接続に活用できるようになり、さまざまな運用環境での効率とアクセス性が向上する。RIEDEL の『VSP』はインターカム・システムの導入と管理の方法に革命をもたらし、『Artist-1024』プラットフォームとシームレスに統合するバーチャル・ハイブリッド・インフラを導入し、次世代の RIEDEL ソフトウェア・ソリューションの準備を整える。



『Virtual SmartPanel』は、プラットフォームに依存しない操作のためのブラウザだけでなく、iPhone や Android 携帯電話やタブレットに安全性、柔軟性、拡張性の高いリモート・インターカムを追加することで、RIEDEL の既存の『SmartPanel』コンセプトを進化させたものです」と、Riedel Communications インターカム製品マネージャーのフェリックス・コルズが述べています。「これにより、通信において比類のない柔軟性と機動性が実現され、今日のダイナミックで常に変化する制作にとって不可欠なツールとなっています」

『VSP』は直感的であると同時に機能的なユーザー中心の設計を特徴としている。カスタマイズ可能なキーバンクと広範なプロフィール管理機能を備えており、ユーザーは通信設定を特定の要件に合わせて調整できる。インターフェイスのレイアウトと機能は、使い慣れた効率的なユーザー・エクスペリエンスを実現するため、RIEDEL の『1200 シリーズ SmartPanel』からインスピレーションを得ており、使用可能なキーの数は 16 (電話)、48 (タブレット)、64 (ブラウザ) まで拡張できる。

RIEDEL の管理プラットフォーム『STAGE™』を活用した最初の製品の 1 つである『VSP』は、顧客の既存の ID プロバイダーとのシームレスな統合によるユーザー認証への新鮮で安全なアプローチを提供し、スムーズな移行と迅速な導入を保証する。『STAGE™』はライブ・ビューやリモート・コントロールなどの強化されたリモート・サポート機能も提供し、管理者が主要なステータスを監視してリアルタイムで問題を解決できるようにする。ユーザー中心のライセンス・モデルにより、ユーザーは 1 つのサブスクリプションで複数のデバイスにアクセスできるようになり、プラットフォーム間のシームレスな移行が可能。この柔軟性はインターカム設定にも拡張され、各ユーザーが複数のプロフィールを管理し、技術部門による追加設定を必要とせず、プロダクション間で役割を簡単に切り替えることができる。

IT セキュアな規格に基づいた RIEDEL のアプローチにより、『VSP』

は極めて安全なモバイル・インターカム・ソリューションになります。STUN および TURN サーバーならびに WebRTC 暗号化ストリームを介した安全なピアツーピア接続から、冗長オーディオおよびデータ接続まで、多数の冗長性とセキュリティ機構を備えている。『Virtual SmartPanel』は私どもの『Artist』インターカム・プラットフォームを強化するだけでなく、完全にバーチャルなインターカム・システムの領域への前進をリードします」と Riedel Communications 製品管理エグゼクティブ・ディレクターのジェイク・ダッドソンが言います。「『STAGE™』と『Virtual SmartPanel』によって、私どもはサーバー・ベースのハイブリッド導入モデルの基盤を構築しています」



RIEDEL、革新的な SAME™ スマート・オーディオ & ミキシング・エンジンを IBC2024 にて発表

超低遅延の音声処理と比類のない自動化を実現する RIEDEL『SAME™』

Riedel Communications は、革新的なスマート・オーディオ & ミキシング・エンジン『SAME™』を発売す



ることを発表しました。これは、比類のないワークフローの自動化と柔軟性で放送音声の世界を再定義するまったく新しいオーディオ処理ソフトウェア・スイート。

最新のオーディオ・ワークフローの進化する要求を満たすように設計された『SAME™』は、最新の商用オフ・ザ・シェルフ (COTS) サーバー・クラスター技術に基づいており、制作ニーズに合わせて簡単に拡張できる比類のない処理能力を提供します。自動レベリングやダイナミック・イコライゼーションから 5.1 アップミキシング、ラウドネス・メーター、信号アナライザーに至るまで、30 を超える高度な音声処理ツールとミキサーの広範なスイートを備えたこのソリューションは、ボイスオーバー、自動ミキシング、オーディオ・モニタリング、インライン・プロセス挿入のような様々な用途に対応します。RIEDEL の新しいネットワーク・ストリーム・アダプター (『NSA』) のユニバーサル入力と組み合わせることで、ユーザーの方々はマイクから耳まで、完全に自動化された信号経路を享受することができます。

『SAME™』は、音声制作業界に新しいワークフローの世界を切り拓くでしょう」と Riedel Communications のシニア・プロダクト・マネージャー、ロジャー・ハイニガーは述べる。「強力な自動化機構と、指紋ベースのダイナミック EQ やラウドネス・ベースの自動レベリングなどのスマートな処理ツールによって、プロの方々は技術的なことにとらわれずに創造性とコンテンツに集中できます。『SAME™』があらゆる規模の作品をどのように強化するかを見るのが楽しみです」『SAME™』の独自の Audio Pilot により、

音声技師は進行中の全プロダクションの「全体像」を常に把握できるように、複数拠点のプロダクションの包括的なビューを手に入れて一元的な監視と管理が可能になる。また、Audio Pilot には、完全に自動化されたモニタリング・パス切り替え機能を備えた、プロセス/ミキサーに依存しない音声モニタリング・システムも導入されており、ユーザーの方々は手動の信号ルーティングを必要とせずに、システム全体で実行中のプロセスを即座に選択して聞くことができる。

最新の管理プラットフォーム RIEDEL 『STAGE™』 はプロトコルや IP の知識を必要とせずに、機材、役割、担当者の組み合わせと適合を簡素化し、運用を合理化し、セットアップとトレーニングの時間を短縮。この管理バックエンドは、リモートまたは自宅制作向けの強力なリモート・アシスタンス機能を備えており、最高の IT セキュリティ規格に準拠している。このブラウザ・ベースのツールは、企業ディレクトリやサードパーティ ID プロバイダー (LDAP/AD、SAML 他) との統合による広範なユーザー権利管理も備えている。処理と I/O のルーティングは物理的な場所に縛られませんので、『SAME™』を使用すると、異なる作業場所と制作領域間の迅速な切り替えが可能になり、従来のモノリシックな処理ソリューションにあった処理リソースのボトルネックやアクセス権の問題が回避される。

「『SAME™』は、生まれ出るさまざまなライブ・プロダクションのニーズを解決する高性能で柔軟なオーディオ・ツールキットとして、オーディオ専門家によってオーディオ専門家のために設計されました」と Riedel Communications 製品管理エグゼクティブ・ディレクターのジェイク・ダッドソンは言います。「私どもの新しい構成、管理、運用プラットフォーム『STAGE™』との組み合わせで、『SAME™』はサーバー・ベースのソリューションの新時代を到来させ、容量を柔軟に拡張できる柔軟な導入モデルに対する業界のニーズに応えます」



RIEDEL、NSA ネットワーク・ストリーム・アダプター・シリーズを拡充



Riedel Communications は、評価の高いネットワーク・ストリーム・アダプター (NSA) シリーズの 2 つの新製品『NSA-003A』と『NSA-006A』を発売することを発表しました。アム

ステルダム開催の IBC2024 で発表されたこれらのインターフェイスは、IP ベースのオーディオおよびインターカムのワークフローを推進する設計になっており、放送、ライブ・イベント、スタジオ環境のプロの方々に比類のない柔軟性、信頼性、シームレスな統合を届ける。

『NSA-006A』は音声作業環境向けに特別に設計されており、最

新の IP 中心のワークフローに合わせた堅牢な機能セットを提供する。ユニバーサル入力 (マイク、ライン、AES3) と出力 (ライン、AES3) は、全音声ポートの物理接続検出と入力の自動切り替えにより、フォーマットに依存しない柔軟性を提供する。このコンパクトなデバイスには、ステレオ USB オーディオ・インターフェイス、ロータリー・ノブと LED ボリューム・バーによるボリューム制御付きヘッドフォン出力、および柔軟性を高めるための 3 系統の GPIO も含まれている。堅牢な設計と包括的な機能セットにより、コメンタリーやボイスオーバーのブース、コントロール・ルーム、オフサイト制作に不可欠なものとなっている。

「『NSA-006A』には革新的な機能が満載されています」と Riedel Communications のオーディオ・シニア・プロダクト・マネージャー、ロジャー・ハイニガーは言います。「ユニバーサル入力に加えて、私の個人的なハイライトは、156 dB のダイナミック・レンジを備えた高度なマイク・プリアンプ設計です。これにより、アナログ・ゲインの手動調整は不要になり、民生用デバイス間での独自のゲイン補償の複雑さが回避されます」

一方、『NSA-003A』はコンパクトなデザインと高度な機能を組み合わせた多用途の 2 ワイヤ・アナログ・インターカム・アダプター。2 系統の物理 2 ワイヤ接続を備えたこのインターフェイスにより、最大 4 系統のサードパーティ製アナログ・パーティラインと、『Artist』や『Bolero』などのデジタル /IP ベースのインターカム・システムと間の接続が可能になります。ステレオ USB オーディオ・インターフェイスを搭載したことによって、接続したデバイスから AoIP ネットワークへの音声のダイレクト・ストリーミングが容易になり、3 系統の GPIO により、外部ボタンを介した通話およびマイク・ミュート機能でデバイスが強化されます。自動エコー・キャンセルのサポートと合わせて、この機能セットにより、『NSA-003A』は、信頼性、柔軟性、相互運用性が最重要視される制作環境にとって不可欠なツールになる。

どちらの新製品も IP 中心のワークフローを念頭に置いて設計されており、AES67、SMPTE 2110-30 および 31、NMOS IS-04、IS-05、IS-07、IS-08 などのオープン・スタンダードをサポートしています。帯域内または帯域外管理によるデュアル PoE および SMPTE 2022-7 冗長性を備えており、要求の極めて厳しい条件でも信頼性の高いパフォーマンスを保証します。NSA は 30°C までの環境でもファンレスで静音動作できるように設計されており、55°C までの温度でも使用できる温度制御されたファンも備えています。コンパクトな 1RU 1/3 ラック・サイズにより、デスクトップ、壁面、ラック、VESA 取り付けなど、多彩な取り付けオプションも提供する。

ハイニガーは次のように付け加えます：「NSA ファミリーのこの新メンバーは単なるインターフェイスではありません。『NSA-003A』と『NSA-006A』は、柔軟な I/O ソリューションの新時代を切り拓き、完全に自動化された、あるいは自分で操作できるオーディオ・ワークフローの基礎を築く、次世代ネットワーク・ストリーム・アダプターの第一弾なのです」

◆アストロデザイン：2024 国際航空宇宙展に出展

アストロデザイン株式会社（本社：東京都大田区、代表取締役社長：鈴木 茂昭、以下アストロデザイン）は、2024年10月16日（水）から10月19日（土）の4日間、東京ビッグサイト 西展示棟にて開催される「2024 国際航空宇宙展」に出展。



「国際航空宇宙展」は日本最大級の航空・宇宙の総合展示会です。10月16日（水）から18日（金）の3日間をトレードデー、19日（土）をトレード・パブリックデーとして開催される。アストロデザインは産学官連携で宇宙産業の創出に向けて取り組む「とっとり宇宙産業ネットワーク」（事務局：鳥取県庁）に加盟しており、鳥取県庁ブースでの共同出展に参加。アストロデザインが得意とする超高精細・高速・低遅延の映像技術を活かして開発した以下の製品を展示する。

・8K マルチパーパスカメラ AB-4830/AC-4829

手のひらサイズのコンパクトで軽量の8Kカメラです。

フルHDの16倍の解像度を有する8K映像は広域の監視用途に適しており、従来の監視カメラがカバーできなかった広範囲の情報



報を1台で確認できる。

また、検査や試験においても高精細映像で細かな確認作業が行える。

・ウェアラブルカメラ Body Camera ACW-P5000

撮影と通信と通話のすべてを1台で完結できるウェアラブルカメラ。



遠隔で高画質な映像を確認できるため、実験・検証時の移動を最小限に抑えることにより省人化に寄与します。また、危険な現場で作業員に装着することにより、事故などを未然に防ぐツールともなる。

■開催概要

2024 国際航空宇宙展

会期 トレードデー

10月16日（水）12:00～17:00

10月17日（木）～18日（金）10:00～17:00

トレード・パブリックデー

10月19日（土）10:00～17:00

会場 東京ビッグサイト 西展示棟 小間番号:W2-014

入場料 トレードデー（要登録）

[会期前登録:10月15日まで] 無料

[会期中登録:10月16日以降] 一般 5,500円（税込）/ 学生 2,200円（税込）

トレード・パブリックデー

大学生以下: 無料 ** 学生証をご提示ください（小学生以下を除く）

大人: 前売り券 1,200円（税込）当日券 1,500円（税込）

公式サイト <https://www.japanaerospace.jp/jp/index.html>

◆朋栄：キャラクタージェネレーター（送出機）VWS-1100のラインアップを強化

12G-SDI 対応モデルおよび Media over IP 対応モデルを追加



株式会社朋栄（代表取締役社長：清原克明、本社：東京都渋谷区）は、キャラクタージェネレーター VWS-1100 シリーズに 12G-SDI 対応モデル VWS-1100-12G と、Media over IP 対応モデル VWS-1100-IP の 2 モデルを追加する。1 月に発売した HD 2 系統送出モデルの VWS-1100 と HD 1 系統送出モデルの VWS-1100-C1 と合わせて 4 モデル構成とすることで、より幅広いシステムに対応することが可能になる。

型名:	WS-1100-12G	VVWS-1100-IP	MOV MXF-SO
発売時期:	2024年9月末～	2024年12月末発売予定	発売中
希望小売価格:	620万円（税別）	792万円（税別）	25万円（税別）
備考:	※ 4K UHD 1 系統送出モデル	※ ST 2110 HD2 系統送出モデル	動画オプション

VWS-1100 シリーズは、放送局内で使用されるサーバー/クライアント型キャラクタージェネレーターの VWS システムと連携し、スポーツコーダー、L 字・速報、選挙システムの送出用にも使用される、3RU サイズのテロップ送出機。システム用 SSD を RAID1 ミラーリングで搭載し、電源二重化により安定運用を可能にしています。システム用 SSD とは別に、データ用の SSD を最大 4 台実装可能としている。

VWS-1100-12G は 4K UHD 対応モデルとなり、4K UHD 2160/59.94i または HD 1080/59.94i での送出が可能。12G-SDI を搭載しており、1 系統の 4K 送出 (PGM V/K、PREV V) および静止画キャプチャー (V/K) または 2 系統の HD 送出 (PGM V/K、PREV V/K) のほか、2 系統の静止画キャプチャー (V/K) が可能です。VWS-1100-12G は、HD 動画送出に対応する動画オプション VWS-11MOV MXF-SO を 2 式まで追加でき、AVC Intra MXF ファイルの HD 1080/59.94i 動画送出にも対応する。VWS-1100-IP は、25GbE 対応の SFP28 ポートを 4 ポート搭載。HD 1080/59.94i での送出が可能です。IP 方式は、SMPTE ST 2110-20/30/40 の入出力、および SMPTE ST 2022-7 によるヒットレス二重化、SMPTE ST 2059 の PTP に対応している。さらに、HD-SDI 出力を 4 系統、BB または 3 値シンクによる Gen Lock 入力を搭載している。

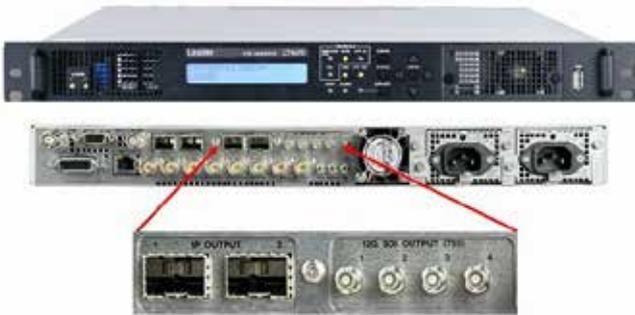
製品に関する問い合わせ：株式会社朋栄 国内営業本部
e-mail: ad@for-a.co.jp

◆リーダー電子：LT4670 シンクジェネレーター用 25G IP/12G SDI TSG オプション発売

■製品名：25G IP/12G TSG

■型番：LT4670-SER04

■発売開始：2024年5月



LT4670-SER04 25G IP / 12G TSG オプション

リーダー電子（社長：長尾 行造）は、LT4670 シンクジェネレーター用 25G IP/12G SDI TSG オプションを発売した。

昨今、IP の需要が増え、基準信号となる IP パターンジェネレーターへのご要望に応えての発売となる。

この新オプションは、PTP グランドマスターやアナログゲンロックに対応した LT4670 シンクジェネレーターへの追加オプションとなり、25G IP と 12G-SDI 信号出力に対応する。

25G IP 対応は SMPTE ST 2110-20/30/31/40 に対応し、映像信号は 2K、4K のテストパターンを発生できます。ST2110 は PTP に対して同期する。

12G-SDI 対応は 12G-SDI(4K)、3G-SDI(レベル A、レベル B)、HD-SDI、および S-SDI に対応します。SDI 信号出力端子は独立した 4 系統の出力を備えており、パターンや位相をそれぞれ設定できる。

ユーザーパターン出力に対応し、BMP / TIFF ファイルを内蔵パターンとして使用できる。

SDI から IP への放送用信号源として幅広く使用できる。

【問い合わせ先】 本社営業部

TEL.045-541-2122 E-mail : sales@leader.co.jp

◆リーダー電子：WAVEFORM MONITOR LPX500 発売

■製品名：WAVEFORM MONITOR

■型番：LPX500

■発売開始：2024年11月末



LPX500



Extend Monitor

LPX500

リーダー電子（社長：長尾 行造）は、WAVEFORM MONITOR、LPX500 を販売いたします。

LPX500 はハイブリッドな IP/SDI 波形モニターであり、今回初めて Leader および PHABRIX の両ブランドの次世代テクノロジーを網羅した新製品ブランド、LeaderPhabrix としてリリースされる。

LPX500 は 8 インチのタッチスクリーンを備えたコンパクトな形状で、中継車などラックスペースが限られている場所に最適な波形モニター。

4 つの独立した入力インターフェースを持ち、4x4K (12D-SDI) 入力、および SDI と IP 入力の同時表示を実現。2K+4K や 4K+4K など、フォーマットに関わらず同時表示も可能としている。また、オプションの 8 インチ・タッチスクリーンモニター (Extend Monitor) を接続、拡張することができる。さらに内蔵の noVNC を使用して、リモート ネットワーク経由での高速アクセスも実現した。

LeaderPhabrix ブランドについて

放送局業界で使われる波形モニターおよびシンクジェネレーターの新製品ブランドとして、この度「LeaderPhabrix」を立ち上げました。業界をリードするテクノロジーを新しい最先端のプラットフォームに統合することで、革新的な製品をお客様に提供するという使命において大胆な一歩を踏み出す。

【問い合わせ先】 本社営業部 TEL.045-541-2122

E-mail : sales@leader.co.jp

◆キャノンマーケティングジャパン：高品質・高生産性とセキュリティを両立する広幅デジタルモノクロ複合機“plotWAVE T30/T35/T50/T55”と広幅デジタルカラー複合機“colorWAVE T60”を発売

キャノンマーケティングジャパン株式会社（代表取締役社長：足立正親、以下キャノン MJ）とキャノンプロダクションプリンティングシステムズ株式会社（代表取締役社長：上田克己、以下キャノン PPS）は、製造・建築・印刷関連企業や官公庁向けに、広幅デジタルモノクロ複合機のベーシックモデル“plotWAVE T30/T35”とミドルレンジモデル“plotWAVE T50/T55”、広幅デジタルカラー複合機のベーシックモデル“colorWAVE T60”を2024年9月6日より発売した。



plotWAVE T30/T35 plotWAVE T50/T55 colorWAVE T60

建築・製造・印刷関連企業、官公庁では、高度な機能を持つ製品・システムの増加に伴い、複雑で高密度化された図面などを制作する業務が増え、製品やシステムの設計に関する機密情報を含む大判図面データの印刷には、セキュアな印刷環境が必要とされている。一方で、生産年齢人口減少などの社会的背景を受け、印刷現場においても労働力不足による生産性向上が課題となっている。

こうしたニーズに応えるため、このたび、高品質・高生産性と高度なセキュリティを兼ね備えた、広幅デジタルモノクロ複合機“plotWAVE T30/T35/T50/T55”と、広幅デジタルカラー複合機の新製品“colorWAVE T60”を発売する。

5機種すべてにキャノン独自開発の印刷技術を搭載していることにより、忠実な再現が可能で高品質なプリントを実現します。また、統合印刷セキュリティテクノロジーの搭載により、不正アクセスの防止やハッキング対策などプリントワークフロー全体を統合的に保護している。

1. 高品質なプリントを実現するキャノン独自のテクノロジー

“plotWAVE T50/T55”と“colorWAVE T60”は、新たにメディア残量表示機能を搭載しました。印刷ジョブを開始する前にメディアの残量が十分にあるか確認できるため、メディア不足によるジョブの中断を防ぎ、印刷工程の生産性向上に貢献している。

また、プリンター上部にユーザーアテンションライト※1を搭載し、プリンターの遠くにいても状態を把握しやすくなったことで、エラーの早期発見と対処が可能になり、業務効率化を支援する。

“colorWAVE T60”には4色のトナーをジェル状にして噴射させ

るキャノン独自開発の印刷技術「クリスタルポイント・テクノロジー」を搭載し、正確で鮮明な描写を実現します。ジェル状のため飛び散りがなく、噴射粒の形状が安定しており、普通紙でも線画からグラフィックまで高品質な出力が可能です。

2. 統合印刷セキュリティテクノロジー「スマートシールド」によりセキュアな印刷環境を担保

大判図面データのセキュリティ強化の要望に対し、5機種すべてに統合印刷セキュリティテクノロジー「スマートシールド」を搭載している。社外からの不正アクセスを防ぎ、ICカードを使用したユーザー認証によるアクセス制限や、ディスクの暗号化、ハッキング対策など、プリント業務を統合的に保護する。

3. ユーザビリティのさらなる向上により業務効率化に貢献

“plotWAVE T50 / T55”と“colorWAVE T60”は、新たにメディア残量表示機能を搭載し、ロール上で使用可能なメディアをメートル／フィート単位で表示することが可能となりました。印刷ジョブを開始する前にメディアの残量が十分にあるか確認することで、メディア不足によるジョブの中断を防ぎ、スムーズなプリントに貢献します。

また、5機種すべてのプリンター上部にユーザーアテンションライト※1を搭載しました。プリンターの状態に応じて緑色・オレンジ色・赤色の3色いずれかが点滅もしくは点灯することにより、トナー残量が少ない場合やエラー検出時などプリンターの状態を把握しやすくなり、業務効率化を支援します。

※1. オプションで搭載可能。

〈標準小売価格〉

製品名	価格（税別）	発売日
plotWAVE T30 Printer モデル	181万円	2024年9月6日
plotWAVE T30 MFP モデル	247万円	
plotWAVE T35 Printer モデル	203万円	
plotWAVE T35 MFP モデル	269万円	
plotWAVE T50 Printer モデル	398万円	
plotWAVE T50 MFP モデル	464万円	
plotWAVE T55 Printer モデル	509万円	
plotWAVE T55 MFP モデル	574万円	
colorWAVE T60 Printer モデル	508万円	
colorWAVE T60 MFP モデル	574万円	

●報道関係者のお問い合わせ先：キャノンマーケティングジャパン株式会社 広報部 03-6719-9093（直通）

●一般の方のお問い合わせ先：キャノンプロダクションプリンティングシステムズ株式会社 03-6719-9642 商品企画部 商品企画第二課

●大判プリンターホームページ：canon.jp/wfp

◆キヤノン：CAD 図面・ポスター向け大判プリンター “imagePROGRAF TZ-32000” など 4 機種を発売

発色性の向上と本体上面からの排紙により高品位で効率的な出力を実現

キヤノンは、大判インクジェットプリンター「imagePROGRAF (イメージプログラフィ)」シリーズの新製品として、5色インクモデル “TZ-32000” (A0 ノビ対応) と “TX-4200/3200/2200” (B0 ノビ/A0 ノビ/A1 ノビ対応) の4機種を2024年10月2日に発売する。



TZ-32000 (オプションのスキャナー装着時^{*1})



TX-4200 (オプションのロールユニット装着時)



鮮やかなポスター出力を支援

新製品は、CAD・ポスター市場向けの大判インクジェットプリンターです。“TZ-32000”は、大量の図面を高速に出力し、建築や設計の現場、製造業、出力サービスなどで求められる高い生産性を実現している。また、“TX-4200/3200/2200”は、図面のほか、流通・小売りのポスターや、企業・官公庁の掲示物など、幅広いプリントニーズに対応する。新製品全てにおいて、生産性をさらに高めるとともにポスター画質の向上を図ることで、多様な印刷物を効率的に出力でき、出力サービスを提供する事業者のビジネス領域拡大や企業の掲示物内製などを支援する。

■新画像設計とマゼンタインクにより色鮮やかなポスターや高発色で高精細な図面の印刷が可能

インクの発色性能を最大限生かし、濃く鮮やかな色を再現する新画像設計と、従来機種^{*2}に比べ発色を向上させたマゼンタインクにより、普通紙でも高発色なプリントを作成します。建築物のパースや小売店・飲食店のポスター、オフィスの社内掲示物などを、人目を引く鮮やかな色味で再現し、図面のカラーの線や文字をくっきり印刷できます。また、全色顔料インクにより、黒の細線や文字も鮮明に再現し、高品位な図面の印刷が可能です。

■高速出力と印刷作業の省力化によりダウンタイムの少ない連続印刷を実現

“TZ-32000”は、imagePROGRAFシリーズで最速となる1分間に4枚^{*3}の高速プリントを実現します。印刷物は、図面もポスターも上面排紙が可能で、本体前面から自然な姿勢で取り出すことができます。“TXシリーズ”は、従来機種より印刷速度を高め、1分間に3.3枚^{*3}のプリントが可能です。いずれの機種も用紙の給紙や種類の検知、残量の推計を自動で行う「スマートロール紙セット」機能を備え、給紙処理を高速化することでロール紙セットにかかる時間^{*4}を従来機種より約3割短縮します。また、インク吐出状態を定期的にモニタリングしてインク着弾位置を自動で最適化するインクセンシングシステムや、プリントヘッドの個体差、経年変化による色のばらつきを自動補正するカラーキャリブレーション機能を新たに搭載し、高画質を維持します。

■製品梱包材での発泡スチロール不使用や「EPEAT」ゴールドの登録など環境に配慮

製品梱包材に使用していた発泡スチロールを全てリサイクル可能な段ボールに切り替えることで、環境への負荷を低減。また“TZ-32000”は、動作時の消費電力を従来機種に比べ約29%、“TX-4200/3200”は約25%削減している。“TX-2200”を含めていずれの機種もNPO団体GEC (Global Electronics Council) が電子機器製品を対象に設立した国際的なエコラベル「EPEAT」において、米国で「EPEAT」ゴールド製品として登録されている。

^{*}1. デンマークの Global Scanning 社製。

^{*}2. “TZ-32000”の従来機種は、“TZ-30000 MFP” (2021年6月発売)、

“TXシリーズ”の従来機種は、“TX-4100/3100/2100” (2021年5月発売)。

^{*}3. A1横、普通紙図面、最速印刷設定。

^{*}4. “TZ-32000”では本体給紙部にロール紙を置きロールカバーを閉じてから、“TXシリーズ”では本体給紙部にロール紙を置いてから、印刷可能な状態になるまでの時間。

製品名	希望小売価格 (税別)	発売日
imagePROGRAF TZ-32000	116万6千円	10月2日
imagePROGRAF TX-4200	74万8千円	
imagePROGRAF TX-3200	64万千円	
imagePROGRAF TX-2200	49万円	

● 一般の方のお問合せ先：キヤノンお客様センター 0570-08-0063

● 大判インクジェットプリンターホームページ：canon.jp/imageprograf